

入選

やさしい気もち

岡山県 味野小学校

2年 濱田風花

わたしは小さなしんせつと聞いて、2つのことが思いうかびました。

まず1つ目は、お兄ちゃんと学校に行っていたときのことです。わたしはお兄ちゃんときょうそうしながら行っていました。そのとき、石にひっかかかってころんでしまい、ひざをすりむいてしまいました。

血もたくさん出て、いたくて泣いていると、お兄ちゃんがティッシュをくれてうれしかったです。そのとき、車で通りかかった女の人が車をとめて、「どうしたの？」と声をかけてくれました。私は泣いていたのでこたえることができず、お兄ちゃんがかわりにへんじをして、カットバンをもらい、おれいを言ってくれました。

そのまましばらく、泣きながらすわりこんでいると、またべつの人が通りがかり、「水であらった方がいい」と教えてくれ、水どうののところまでつれて行ってきて、きずをあらってカットバンをきれいにはってくれました。私は小さな声でしか「ありがとう」が言えなかったけれど、お兄ちゃんがきちんとおれいを言ってくれました。

そして、お兄ちゃんが手をひっぱってくれて、学校に行くことができました。わたしは、ころんだことで、たくさんの人のしんせつにふれることができました。カットバンをくれた人もやさしいと思ったし、水であらってカットバンをはってくれた人もとてもやさしくて、うれしかったです。

いつもはケンカばかりのお兄ちゃんだけれど、このときはやさしくて、うれしかったです。とてもあたたかい気もちになりました。

2つ目は、冬休みのできごとです。わたしはお正月にお母さんのじっかのあるふくおか県に行きました。お父さんはしごとなので、お母さんとお兄ちゃんとおとうと、私の4人で電車と新かん線にのって行きました。ぜんぶで3時間くらいかかります。さいごの電車にのったとき、人が多くてすわるところがなくて立っていると、近くの人がすぐに気がついてくれて、せきをゆずってくれました。

一人がゆずると、ほかの人もゆずってくれて、家ぞくみんなですわることができました。わたしはにもつもおもかったし、つかれていたの「たすかった」と思ってうれしかったです。電車の中を見わたしてみると、せきがあいてるのにすわらずに立っている人もいて、なんですわらないのかふしぎに思っていました。

この体けんをして、みんなすわりたいけれど、みんながすわるとせきのとり合いになってケンカになってしまうから、ゆずり合っているんだとわかりました。

私はしんせつにされると、とてもやさしい気もちになることがわかったし、とてもたすかりました。これからこまった人がいたら、こえをかけるのは少しゆう気がいるけれど、じぶんからたすけられる人になりたいと思いました。